

3 地域農業・農村の「めざす姿」

“最北”の強みを活かし、未来を担う人材が活躍する宗谷酪農

- 小規模でも低コストで経営効率が高い経営や、大型化により生産効率を高めた経営など、多様な経営体が、宗谷の強みである冷涼な気候と広大な牧草地を最大限活用した、生産性の高い酪農を展開しています。
- 活力ある地域コミュニティと、働きやすく、住みやすい環境の中で、地域の未来を担う人材が活躍しています。

4 「めざす姿」の実現に向けた主な取組の方向

(1) 多様な経営体の生産性向上をめざす

- 草地整備事業や畜産クラスター事業、畜産ICT事業などの補助事業を有効的に活用し、それぞれの経営方針に適した草地整備や牛舎等の施設整備、機械導入を推進します。
- 草地の生産性向上に向けた追播などによる草地更新の促進や、酪農試験場天北支場と連携した草地の植生改善、乳牛の能力を最大限に発揮できる飼養環境の改善などに取り組みます。
- コントラクターやTMRセンター、公共牧場など、地域の営農支援組織の充実を図り、飼料生産や哺育・育成の外部化・効率化を進めます。

[多様な経営体による生乳生産]

管内の農業経営体は家族経営が主体となっていますが、小・中規模であっても、良質な自給飼料の生産や、乳牛改良による高能力な牛づくりなどで高い生産性・収益性を実現している経営体もあれば、地域の核となる農業法人が、大規模施設を整備し地域の生乳生産を担うとともに、牧草収穫などの飼料生産を受託し周辺農家の生産を支えている経営体もあるなど、管内の生乳生産は多様な経営体によって支えられています。



畜産クラスター事業を活用して整備された牛舎

(2) 地域と未来を担う人材が活躍する酪農地域をめざす

- 新規就農者を確保・育成するため、大学などでの就農セミナーの実施や、就農イベントなどへの出展・参画を行うとともに、酪農経営における知識や技術力を高める指導や研修を実施します。
- 農泊や農家レストランなど、農村地域の様々な魅力を伝える取組を推進するとともに、新たな人と経済の流れにつながる都市と農村の交流活動を促進します。
- 働きやすく活気があり、住みやすい酪農地域となるように、研修機会などを通じた農業者間の交流促進を図り、地域のコミュニティ機能を高めます。

[地域の担い手が酪農を学び交流を深める]

酪農の担い手を育成するため、管内在住の新規就農者や若手農業者を対象に、酪農の基礎知識や技術を学ぶ「SOYAルーキーズカレッジ」を毎年開催し、技術力の向上と交流の輪を広げています。

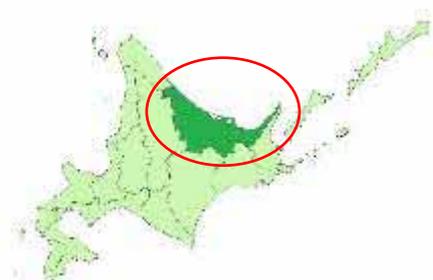


SOYA ルーキーズカレッジの開催風景

オホーツク地域

1 地域農業の特色

- オホーツク地域は、小麦やてん菜、馬鈴しょを主体とする畑作や全国一の生産量を誇るたまねぎ、酪農・畜産など、広大な土地資源を活用した大規模で生産性の高い農業が展開されており、農業産出額は十勝に次いで第2位となっています。
- オホーツク海と280kmの海岸線で面し、地域によって気候や土壌条件が異なり、北部では酪農、南部では畑作や野菜を中心とした経営が行われています。農作物の作付面積は、小麦、てん菜、馬鈴しょ（以下「畑作3品」という。）の順に多く、畑作物作付面積の8割以上を占め、畑作3品を主体とした輪作が行われています。



2 現状と課題

- 農家戸数は、近年大きく減少する中、新規参入者は年間数名程度で推移するなど、今後も減少が懸念されており、また、急速な経営規模の拡大などにより、労働力不足が深刻になっています。
- 畑作3品を主体とした経営規模の拡大が進む中、省力化が可能な秋まき小麦の作付けが増加し、小麦の連作やてん菜、馬鈴しょの交互作など輪作体系に歪みが生じるとともに、重要病害虫であるジャガイモシストセンチュウ類などの発生もみられています。

3 地域農業・農村の「めざす姿」

オホーツクの広大な大地で“クール”に農業



※クール：かっこいい、素晴らしい、素敵な

- スマート農業技術を駆使した、大規模で生産性が高く、労働負担の少ない農業生産体系が確立し、持続可能で先進的な農業が展開されています。
- コントラクター・TMRセンターなどの営農支援組織や協業型法人経営が、経営体や地域を支える高度な支援システムが確立しています。
- 新規参入者を含めた意欲の高い担い手、雇用従事者、障がい者、外国人材など多様な人材が生き活きと活躍できる環境が整備されています。
- 農業と他産業が高度に結び付いた、オホーツクの魅力ある食関連産業が確立し、地域経済を牽引するとともに、道内外の都市住民など消費者を惹きつけるオホーツクブランドが定着しています。

4 「めざす姿」の実現に向けた主な取組の方向

■ 基本的な考え方

- 【畑作】・省力化に加え、収量や品質の向上、コスト低減に繋がるスマート農業技術、コントラクターを活用した効率的かつ収益性の高い大規模畑作農業の展開
- ・畑作3品に加えて豆類等の作付拡大による適正な輪作体系の確立
- ・ジャガイモシストセンチュウ類対策などの確立
- 【畜産】・家族経営を中心とした収益性の高い畜産経営の展開
- ・コントラクターやTMRセンター、哺育育成センター等の営農支援組織の育成強化による労働負担の軽減
- ・搾乳ロボットや発情発見装置などスマート農業技術の活用による省力化

(1) 持続可能で先進的な農業の展開

- 秋まき小麦、てん菜、馬鈴しょに加え、第4の作物として豆類の振興など適正な輪作体系の確立に取り組みます。

◆豆類の振興とビーンズファクトリーの取組

オホーツク管内の豆の調製を一元化するオホーツクビーンズファクトリー(大空町(H30))が完成し、品質の安定化・均質化によるオホーツク産豆類のブランド化、適正な輪作体系の確立に向けた豆類の作付けを推進。



- ジャガイモシストセンチュウ類やコムギなまぐさ黒穂病などの早期発見・まん延防止対策などに管内関係者が一体となって取り組みます。
- 省力化に加え、収量や品質等の向上、コスト低減に繋がるスマート農業技術など先進技術の幅広で効果的な導入を進めます。
- 農作物の収量や品質、農作業効率の向上など農業生産を支える農業生産基盤の整備に計画的に取り組みます。

(2) 経営体を支えるシステムの推進

- 家族経営など経営体を支える営農支援組織の育成強化などに取り組みます。

◆営農支援組織強化の取組(加工馬鈴しょコントラ事業)

きたみらい農業協同組合では、農業者の労働負担の軽減や輪作体系の適正化に向け、ポテトハーベスターなどを導入し、R2から加工馬鈴しょの収穫などをコントラクター事業として実施。



(3) オホーツクでの新規就農者や農業従事希望者など多様な人材の確保・定着

- オホーツク管内が一体となった新規就農等のPRの実施や、受入体制の構築により、新規参入希望者の受入から就農までの支援を一体的に取り組みます。
- 農業系大学や高校と連携して学生の農業への理解の促進とともに、就農や農業関連産業への就業意欲の向上に取り組みます。
- 農業生産や選果場など関連施設を支える多様な人材の確保・定着に取り組みます。

◆研修機能付き生産法人の立ち上げ

北オホーツク農業協同組合出資型法人(株)Farm to-moが、R2に研修機能を備えた生産牧場の整備を完了し、TMRセンターやコントラクターと連携して、新規就農者育成や地域の生乳生産維持拡大に向けた取組を開始。



(4) オホーツク農業のブランド力向上

- オホーツクの高品質で安全・安心な地場農産物の付加価値向上を図り、オホーツク農業の魅力の発信と、ブランド力の向上に取り組みます。

十勝地域

1 地域農業の特色

- 十勝地域は、本道の耕地面積の22.2%（H30）を占める広大な大地を基礎として、開拓以来130年に及ぶ先人の努力と土地改良事業により実現された高い生産性を活かし、耕畜両部門ともに高水準の生産を実現し、管内の農業協同組合販売取扱高（R1概算）は3,549億円（うち耕種部門39.5%、畜産部門60.5%）に達するなど、日本最大の農業地帯として発展しており、十勝の安全・安心な食は、国内外から高い評価を得ています。
- 十勝農業を核として多様な産業が生み出す経済波及効果は約2.8兆円（H30）となっており、その農業を支えるコントラクターなどの営農支援体制や十勝に集積する農業専門の教育機関から輩出される優れた人材が地域で活躍するとともに、産学官金が連携した生産技術の高度化や管内市町村が連携した「フードバレーとかち」など、十勝が一体となって様々な取組が進められています。



2 現状と課題

- 人口減少により、農業や関連産業、営農支援組織の労働力不足が一層深刻になるとともに、農村インフラや地域コミュニティの脆弱化が懸念されています。
- 経営の規模拡大の進行により、省力化技術の開発・導入が急速に進展する一方、家畜ふん尿処理や病害虫対策など大規模化に伴うリスクの顕在化が懸念されています。
- 国際化の進展や災害の頻発、コロナ禍による経済への影響や生活様式の変容など、農業・農村を取り巻く環境の変化への対応が求められています。

3 地域農業・農村の「めざす姿」

日本の食料生産を支え、地域を豊かにする農業王国十勝

開拓精神のもと官民が一体となって築き上げてきた日本の食料基地「十勝」を今後とも発展・継承するため、常に先駆的な取組を進め、十勝の魅力と強みを最大限活かし、次世代を担う多様な人材の活躍と農業・農村の持つ多様な可能性の発揮により、農業者と地域住民が農業の生み出す豊かさを分かち合いながら、日本農業を牽引しています。

具体的な将来像

- 農業が「あこがれの職業」となり、家族経営をはじめとした担い手や、地域農業を支える多様な人材がいきいきと活躍しています。
- 恵まれた大地を活かし、高品質な食料を安定的に生産・供給する拠点が形成されています。
- 安全・安心な食を提供する「十勝」ブランドが、国内外で認められ続けています。
- 常に環境変化に対応した新しい技術の導入に挑戦し、先進的で高度な技術のもと農業が次世代の先進産業として環境と調和しながら発展をしています。

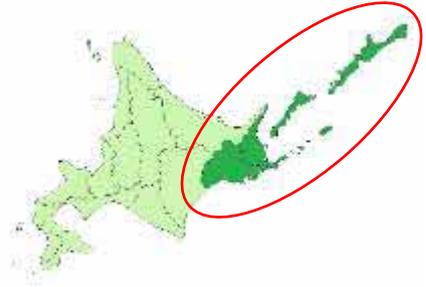
4 「めざす姿」の実現に向けた主な取組の方向

めざす姿		取組の方向性	
日本の食料生産を支え、地域を豊かにする農業王国十勝	多様な人材が活躍する農業・農村	<p>【多様な人材の活躍】</p> <p>○ 道立農業大学校など農業専門の教育機関と連携し就農・就業支援を進めるとともに、農業法人や関連産業、営農支援組織などの就業環境を整備し魅力ある就職先として「選ばれる農業」となるよう取組を推進するほか、自衛隊など異業種からの人材確保に向けた取組や農福連携などを促進し、農業・農村で多様な人材が持続的に活躍できる環境づくりを進めます。</p>	 <p>退職予定自衛官向け インターンシップ</p>
	安定的な食料の生産・供給拠点の形成	<p>【食の拠点確立】</p> <p>○ これまでに整備された近代的な生産施設に加え、ほ場の大区画化や暗渠排水、畑地かんがいなどの土地基盤整備の推進、貯蔵・流通体制の強化とともに、耕畜連携による土づくりや農業研究機関等と連携した生産技術の向上、安全・安心な食の提供などを通じて、日本の食料供給基地としての安定的な生産・供給拠点の形成を進めます。</p>	
	ブランド力強化や海外を視野に入れた販路拡大	<p>○ 大規模な加工・貯蔵施設をはじめ、道内唯一の北米・EU向け食肉加工処理施設などを活かした輸出拡大や、産地一体となった6次産業化など付加価値向上の取組を進め、広大な自然を背景とした安全・安心な食を供給する「十勝」を世界に通用するブランドとする地域一丸となった取組を強化していきます。</p>	
	新たな価値を生み出す科学技術等の活用	<p>【次世代先進産業の構築】</p> <p>○ 生産性の高い土地基盤等を活かしたICTやロボットなどの先端技術の導入を促進するとともに、畜産経営の大規模化に対応したバイオマス利活用と耕種経営との連携強化を推進し、農業関係者が一体となって先端技術を活用した持続可能な生産活動を進めます。</p>	 <p>高校生スマート農業実践講座</p>
推 進 体 制			
<p>「十勝農業・農村施策推進会議」において「めざす姿」の周知や中間報告などを通じて地域からの意見を聴きながら計画を推進するとともに、課題解決に向けては「十勝地域農業技術支援会議」などと連携して取り組みます。</p>			

釧路・根室地域

1 地域農業の特色

- 釧路・根室地域は、冷涼な気候と広大な土地を活かした我が国最大の草地型酪農地帯であり、農業産出額の約9割を酪農が占めています。
- また、肉用素牛生産を主体とする畜産が行われているほか、内陸部では小麦、てん菜、馬鈴しょを主体に、そば、大根、ブロッコリーなども生産されています。釧路管内においては近年、企業による施設園芸への参入も増えています。
- 地域の強みとして、釧路港（バルク港）や高速・高規格道などの物流ネットワークを有し、生乳の道外移出の拠点となるほか、多数の乳業や飼料工場が立地しており、牛乳乳製品の加工施設の新設・拡張や、黒毛・交雑種の肥育による肉用牛生産の産地化で、食や観光のブランド化を目指す動きもあります。



2 現状と課題

- 酪農については、近年の乳価上昇により農家経営は安定しつつありますが、農家戸数は毎年減少しており、規模拡大志向農家による離農者の生産基盤引受けについても限界が懸念されています。このため、草地など生産基盤の維持や、農村人口減少下でのコミュニティの存続が重要な課題となっています。
- また、省力化機械などの導入により労働力不足解消に取り組む経営がある一方で、乳価水準の動向や飼料価格の変動、国際化の進展などが農業者の新規投資の不安要素となっており、良質な飼料生産など外部の価格変動に左右されない酪農経営の確立が求められています。
- 肉用牛生産については、乳用種のほか、和牛精液や受精卵移植などを活用した黒毛和種・交雑種の飼育が広がっており、更なる増頭や肥育部門の拡大が求められています。
- 近年、地震や台風などの自然災害が増加しており、新型コロナウイルスへの対応も含め、災害などへの対応が必要となっています。

3 地域農業・農村の「めざす姿」

我が国の酪農を牽引し続け、次の世代が夢をもつことのできる農業・農村



根釧地域では、平成27年2月に管内市町村長・農業協同組合長が「根釧酪農ビジョン(以下、ビジョン)」を策定し、農業団体と市町村、振興局などが連携し、ビジョンの将来像の実現に向けた取組を展開しています。「めざす姿」は、ビジョンの内容を基本に、近年の新たな動きや課題などを踏まえ、道として整理したもので、今後、関係団体と一体となって取組を推進していきます。

4 「めざす姿」の実現に向けた主な取組の方向

(1) 草地型（循環型）酪農の推進

- 草地の適正管理や草地整備改良事業の計画的な実施を推進します。
- 生涯生産性の向上に向けた乳牛などの遺伝的改良や疾病軽減対策を推進します。
- 家畜排せつ物を適切に処理し、有機質肥料として農地に還元し、適切な肥培管理や臭気の軽減を行うなど、環境や家畜にもやさしい農業経営を推進します。

【事例】植生改善プロジェクトの取組（弟子屈町）

町内A地区では、草地の6割が裸地か雑草となるなど、植生改善が課題だったことから、農業協同組合、町、農業改良普及センターが連携し、植生の実態把握や更新計画樹立ソフトの開発を行うとともに、優良な草地管理技術の地区内での普及などの取組を展開しました。その結果、草地更新率が5%から9%、草地維持年数が5年から7年に改善し、地区内農家の経営改善にも寄与しています。



(2) 農業農村を支える多様な担い手と人材の育成確保

- 意欲ある農業者の規模拡大、中小規模の家族経営の維持、企業による施設園芸・肉用牛等への参入など、ビジョンで掲げる多様な担い手の育成確保を推進します。
- 後継者の育成や配偶者の確保に取り組みます。また、女性・高齢者がより活躍できる環境を整備します。
- 搾乳ロボットや牛群管理システムなどのスマート農業技術の導入や営農支援組織の育成・強化により、低コストでゆとりある農業経営を確立します。
- 新規参入者の広域的な受入体制を整備し、地域での受入・定着の促進や円滑な第三者経営継承に向けた相談員の育成などの仕組みづくりを推進します。
- 外国人材を含めた雇用人材が安心して働き続けられる環境を整備します。
- 災害などの発生に備えた組織継続体制（BCP）の構築と営農支援体制を確立します。

【事例】子育て支援施設「えみふる」の取組（中標津町）

計根別地区には保育園がなく、酪農へ新規参入した地縁のない夫婦にとって、子育て支援が喫緊の課題だったことから、農業協同組合が町やNPO法人などと連携し、児童館と乳幼児一時預かりを一元的に行う町立施設「えみふる」を開設しました。利用農家から、子育て不安が解消されたとの声が寄せられるなど、地域で欠かせない存在として役割を發揮しています。



(3) 高付加価値化の推進と新たな可能性の追求

- 6次産業化など地域の創意工夫を活かした取組や、野菜・果樹など高収益作物の導入を推進します。また、牛乳乳製品や肉用牛の加工品等による地域ブランド力の強化などを進めます。
- 受精卵移植などによる和牛生産拡大や育成・肥育の飼養管理技術の向上を図ります。
- 釧路港や高速・高規格道など地域インフラを活用し、各地域の農村景観や食を活かした根釧地域の「食と観光」の魅力を発信します。

【事例】（株）べっかい乳業興社の取組（別海町）

町と農業協同組合が出資して設立された同社では、牛乳やヨーグルト、バター、チーズなどの乳製品を製造しています。「べっかい」ブランドを確立し、ベトナム等海外にアイスクリームを輸出するなど、国内外に販路を拡大しています。



第5章 計画の推進

1 推進体制

道では、行財政改革により行政サービスの質の維持を図りながら、限られた行財政資源を最大限に活用して、農業・農村の振興に関する施策を総合的・計画的に推進します。

また、計画の推進に当たっては、「北海道総合計画」との一体的な推進を図る観点のもとより、多様化・高度化する行政ニーズや新たな政策課題に対応するため、庁内部局との横断的な連携を図りながら、効率的で実効性のある施策を推進します。

2 市町村や関係団体等との連携・協働

この計画の推進に当たっては、地域の創意と主体性が存分に発揮できる社会を目指し、市町村への事務・権限の移譲の推進などを踏まえ、農業者をはじめ道民の主体的な取組を基本に、市町村をはじめ農業団体や他産業関係者、消費者などが、それぞれの役割に応じながら、創意と工夫による連携・協働の取組を推進することとしています。

3 進行管理

この計画の推進管理に当たっては、毎年度の政策評価を通じて、施策の推進状況を点検・評価し、その結果を踏まえた見直しや改善などを行い、施策を効果的・効率的に推進します。

また、この計画に基づき実施した農業・農村の振興に関する施策については、条例第4条に基づき議会に提出する年次報告により公表します。

なお、社会経済情勢の変化などにより、この計画の推進に大きな影響がある場合には、北海道農業・農村振興審議会の意見を聴いて、計画の見直しなど必要な措置を行うこととします。